釧路労災病院小児科休診にあたって

小児科　仲西正憲

最初に、今回の小児科集約化に際し、患者の皆様は勿論、釧路労災病院の職員の皆さんを含む医療機関、釧路市を初め近隣町村の関係諸部署に大きな不便を掛ける結果となったことをお詫びいたします。

釧路労災病院小児科は皆様のご理解を頂き外来・入院患者数は年々増加していたため、２０００年以降は、小児科医４人体制が必要と考えていましたが、実際に４人体制が可能であったのは２００１年10月から２００２年３月までの６カ月間のみでした。一方、釧路赤十字病院小児科も総合周産期センターや釧路地方の小児科二次救急病院などの指定を受け、小児科医８人体制を必要としていましたが、８人体制は一時的にも実現できず、７人体制が可能となったのも、２００５年４月から２００６年３月までの１年間のみに限られていました。両病院小児科とも必要な人員の確保が困難な状態が持続していました。

平成16年に研修医制度が実施されたことを背景に、小児科医増員という観点からの状況はさらに悪化をたどり、現状維持も困難と考えられる状況に至りました。前述のように更なる減員が不可能な状況にあることは北大小児科でも理解して頂けていたようで、（少なくとも釧路労災病院小児科に対しては）小児科医減員の打診はなく、集約化の可能性に関する打診のみがなされました。現在の両病院における小児科の体制、特に釧路労災病院における現在の小児科医の診療にあたる勤務状況を鑑み、釧路市および近隣地域の周生期（＝出産・分娩前後の時期を、母体を中心として考える場合には〝周産期〟、新生児を中心とした観点からは〝周生期〟といいます）を含む小児医療を維持するためには、集約化が唯一の選択肢と考えられ、小柳釧路労災病院長の御理解を頂いて実現可能となりました。結果的に産婦人科も集約化することになり、分娩可能施設数の減少を招いたことは、少子化対策の観点からは選択肢を減らすことになるため望ましくないことは明らかであり、避け得るならば避けたい結果であったと考えています。

平成19年４月から釧路赤十字病院小児科は小児科医８人体制となりますが、釧路労災病院のみならず、根室や釧路市内の他の分娩可能医療機関における分娩休止や分娩数制限が予測される自体も重なったため、当然分娩数は著しく増加することが予想され、外来及び入院される患者さんたちの数の増加と入院病床を直ちに増床することが困難であることを考慮するとマン・パワーの著しい不足は明らかと考えられます。

さらに、釧路市小児科医会に属する開業の小児科医師５人中私より年齢が若い医師は１人のみであり、開業小児科医も高齢化が着実に進行している状況です。このような釧路近郊の小児医療の現状を理解して頂き、救急医療を本当に必要とする小児が可及的速やかに必要な医療を受けられない状況に陥らないために、以下の３点を特に心に留めて下さるようお願いします。

(1)本当の緊急時（対象が小児の場合、この判断が肉親にとっては難しいのですが）の他は日常診療時間中の受診を励行する。

(2)発熱や下痢・嘔吐などの症状発現時にまず行うべき対応（電話で耳に胼胝（タコ）ができるくらい言われているお母さんが多いと思いますが）をきちんと実行する。

(3)その上で、救急病院や当番病院を含む医療施設への受診が直ちに必要であるかどうかを、なるべく冷静に判断する。

以上、小児医療の状況を更に悪い方向に向けないためにお願い致します。

シリーズ　病気のお話し〈15〉

パーキンソン病について

神経内科　津坂　和文　先生

北海道新聞の朝刊に長期連載された「ほのぼのくん」は作者の佃公彦さんの健康上の理由で、ついに終了となりました。その健康上の理由に「パーキンソン病」と書いてあったのをご記憶の方も多いと思います。今回はパーキンソン病のことをごく簡単にご説明します。

パーキンソン病は脳の病気ですが、脳の画像検査では異常は見いだせません。脳の中でもごく小さな、中脳の黒質というところの神経細胞の数が減ってしまうのです。細胞の数が減る本質的な原因はまだ見つかってません。便宜的に私たちは「変性」と呼んでいます。小さな部分の障害ですが、症状は全身です。はじまりは手の震え、ということが多いですが、徐々に全身の動きが鈍くなり、歩行しづらい、起き上がりづらい、寝返りが打てないなどの症状が出て、日常的な行動の時にも人の手を借りるようになります。

診断は先ほど書きましたように、写真を撮っただけではわかりません。どんな症状が、いつ頃から出てきたか、などの問診が大切で、それに診察所見をあわせて、診断します。診断がつきましたら、次に治療ですが、残念ながら、完全に治してしまうという薬はありません。パーキンソン病が難病と言われる所以です。しかし、根治法はありませんが、パーキンソン病の症状を改善する対症的な治療薬はあります。腰痛の痛み止めのようなもので、飲んでると症状は楽になりますが、やめると、また症状が出てしまうと言うわけです。また、やっかいなことに、長く薬を飲んでいますと、薬の効果が落ちてきたり、副作用が出ることが非常に多く起きます。したがいまして、やみくもに薬をたくさん使う訳にもいきませんので、主治医と相談しながら、少々かげんをしながら薬を使っていかねばなりません。

ほのぼのくんの作者以外にも、有名人では、かのヒトラー、毛沢東、かつてのボクシングチャンピオンのムハメド・アリ、映画「バック・トゥ・ザ・フューチュアー」の主演男優マイケル・J・フォックスなどがこの病気にかかっています。

大変な病気ではありますが、難病の中では薬の開発などが進んでいます。まだまだ説明は不十分ではございますが、紙面の都合で今回の説明はこれくらいにさせていただきます。診療は神経内科でやっております。

肩コリは心のコリ？

勤労者医療総合センター　カウンセリング室　金子　和崇

私の仕事は「こころの病気を予防するための心理相談」そして「体の病気により悩んでいる方のこころのケア」のふたつが仕事の柱です。前記の場合は主治医の先生から紹介され、面談させていただいております。後者は主治医の先生から紹介されますが、心身の悩み以外に肩コリでも悩んでいる方が非常に多いのです。肩コリの原因はケガや体の病気からくる不快感や痛みが原因である場合もありますが、心の緊張が原因である場合も多くあります。「肩の荷を降ろす」「肩の力を抜く」といった言葉がありますが、悩んでいる時や、苦労している時、焦っている時は無意識のうちに力を入れて頑張っているものです。肩コリは無意識のうちに慢性的に弱い力を入れ続けた結果生じたと考えられます。つまり心理学的にみて、肩コリはその人の問題解決の家庭での努力や頑張り、心の力みの結果であると考えられます。また、体の病気からくる不快感が原因の肩コリも、その不快感に耐えるために力を入れて頑張った結果であると考えられます。

肩コリは肩に入れている力を抜けば良いのですが、その力の抜き方が分からなくなっています。悩みと同じく、肩コリもまた解決方法がみつからなくなっているのです。面接ではお話を伺うほかに、肩のこる悩み方をやめて頂くために、ご自分で力を抜いていられるようにすること。そして違う努力の仕方（余計な力や緊張をしない）を体験してもらえるような援助をさせていただいております。少しのコツを得ることで肩こりが消え、やがて問題解決をはかれる場合が多くあります。特に悩みはないけれど、肩や腰などのコリが辛いというだけでも結構です。気軽にご利用ください。

釧路労災病院では、働く人の悩みの相談として電話相談も行っています。どうしても日中は時間がとれない、遠方のために来院することが難しいなどの方は、是非お電話ください。

●勤労者心の電話相談
☎（〇一五四）二一一五七九七平日／火曜～金曜　午後２時～午後８時

編集後記

医師不足で釧路根室周囲の医療も、かなり大変な状況になっています。あまりに突然の様変わりに当事者である私たち医療者にとっても、何がどうなっているのか実感を伴ってないのが現状です。そのような中、ご利用される患者様には多大なご迷惑をおかけしておりますが、出来うる限りのことを続けていくため、職員一同、力を合わせてがんばっていきますので、よろしくお願いします。

神経内科　津坂和文

4月から入職する新人看護師が大きく育つよう、皆様のあたたかく厳しいご指導をお願いします。

看護師　深瀬光枝

Jリーグが開幕すると、春を感じますね。

薬剤部　梶原徹

今年は暖冬でウインタースポーツの日程（モーグル等）が大いに狂っているようです。そういえば雪少ないですもんね。

リハビリテーション科　田口暢秀

暖冬のおかげで、この冬は釧路川が結氷する日も少なく、一年中釣りが楽しめました。

放射線科　高藤浩一

春とはいえ、インフルエンザがまだ猛威を奮っています。うがい・手洗いで予防したいです。

栄養管理室　秋林千尋

記録的な暖冬でした。来年度はベッド数４５０床の釧路労災病院となりますが、より一層患者さんとの距離を短く、温もりの感じられる病院になっていけたらと思います。ぜひとも沢山の皆さんの声を「かわらばん」にお寄せ下さい。

中央検査科　遊佐純教

5月6日～12日まで「看護週間」です。

色々なイベントを企画しております。お気軽にお越しください。